

令和5年度鹿児島学習定着度調査結果（概要）

出水市教育委員会

1 実施の状況

【学力調査】	令和6年1月16日（火）・17日（水）に実施
○	小学校第5学年（国語、社会、算数、理科）
○	中学校第1・2学年（国語、社会、数学、理科、英語）
【児童生徒質問紙】	令和5年11月20日（月）～12月15日（金）
○	児童生徒の学習に関する意識や学び方などに関する調査
	【学校質問紙調査】令和5年11月20日（月）～12月15日（金）
○	学力向上の取組、校内研修の状況、家庭・地域との連携等に関する調査
	【実施校数】
	小学校13校、中学校6校、義務教育学校1校 計20校

2 学力調査の結果

(1) 市の平均通過率 [%]

【令和5年度】 ※ は、70%以上。 は、65%以上70%未満。

		国語	社会	算数・数学	理科	英語
小5	全体	69.7	70.2	77.5	76.7	
中1	全体	73.2	55.2	71.4	66.5	74.9
中2	全体	64.1	69.0	63.8	68.9	67.0

（参考）過去3年間の学力調査の結果（市の平均通過率）

【令和4年度】

		国語	社会	算数・数学	理科	英語
小5	全体	70.4	78.0	67.5	70.4	
中1	全体	69.3	74.3	67.1	65.7	74.6
中2	全体	73.7	54.1	72.8	62.1	67.8

【令和3年度】

		国語	社会	算数・数学	理科	英語
小5	全体	72.2	78.2	71.1	73.1	
中1	全体	75.5	71.2	67.6	67.8	73.3
中2	全体	77.5	68.0	70.0	68.1	61.2

【令和2年度】

		国語	社会	算数・数学	理科	英語
小5	全体	76.6	76.4	69.4	74.6	
中1	全体	79.0	62.4	74.1	70.7	67.5
中2	全体	77.9	72.1	69.1	71.2	58.4

(2) 結果のポイント

本調査は全体の目標通過率を70%に設定し、問題が作成されている。通過率が7割超えた教科は14教科中6教科であった。昨年度から通過率が増加した教科は14教科中8教科であった。

県の平均通過率を上回った教科は、14教科中8教科であった。

(2) 結果の概要

① 小学校 5 学年

ア 国語

目的や意図に応じて自分の考えの理由を明確にしてまとめて書くことや、資料を活用するなどして自分の考えが伝わるように表現を工夫することに関する問題の平均通過率が他の問題よりも低い傾向が見られた。

限られた時間の中で問題の意図を捉えて情報を整理したり、問題の条件に応じて自分の考えや根拠を記述したりする活動に取り組む必要がある。

イ 社会

地図やグラフなどの資料から正しい情報を読み取ることに問題の平均通過率が他の問題よりも低い傾向が見られた。

何を表したグラフ（地図）なのか全体傾向をつかむ、資料を見て気付くことや分かることを書き出したり出し合ったりする、資料で分かったことからどんなことが言えるのか、どんなことが考えられるのかを話し合うなどの活動が必要である。

ウ 算数

単位量当たりの大きさを求めることに問題の平均通過率が他の問題よりも低い傾向が見られた。

単位量当たりについての概念をしっかりと理解させるために、単位量当たりの大きさが明確になるように図に表してみる、単位量当たりの大きさを求める式の意味を説明するなどの活動が必要である。

エ 理科

気付いたことや話し合ったことを基にした問題を見いだすことや予想したことに対する実験結果の見通しを適切に考察することに関する問題の平均通過率が他の問題よりも低い傾向が見られた。

子どもが「なぜ」「どうして」と感じる事象の提示や、自らの予想や仮説を基に観察、実験を計画する際に、自分の考えが正しければどのような結果になるのか結果の見通しを具体的に表現するなどの活動が必要である。

② 中学校 1 学年

ア 国語

根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することに関する問題の平均通過率が他の問題よりも低い傾向が見られた。

自分の考えが確かな事実や事柄に基づいたものであるかどうかを確かめたり、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしたりするような活動に取り組む必要がある。

イ 社会

ヨーロッパの地形や気候、農業の特色、EU の特色に関する問題の平均通過率が他の問題よりも低い傾向が見られた。

社会科で扱う六つの州（アジア、ヨーロッパ、アフリカ、北アメリカ、南アメリカ、オセアニア）の自然、産業、生活・文化、歴史的背景などについての基礎的・基本的な知識を身に付け、理解を深めるようにする必要がある。

ウ 数学

問題解決をするためにどのような数値を用いるべきかを判断することや数学的な結果を事象に即して解釈することに関する問題の平均通過率が他の問題よりも低い傾向が見られた。

関数や式などの関係を見いだしたり、その理由について式やグラフ、図形を根拠に説明したりするような活動に取り組む必要がある。

エ 理科

凸レンズを通る光の進み方や音の伝わり方に関する問題の平均通過率が他の問題よりも低い傾向が見られた。

実際に凸レンズが光を進む様子についての観察や弦を用いた音の伝わり方の実験などの体験をとおして、実感を伴った理解を得ることができるよう工夫する必要がある。

オ 英語

メッセージの内容を捉え、自分の考えを適切に示すことに関する問題の平均通過率が他の問題よりも低い傾向が見られた。

読むことと書くことを往還しながら、自分の考えを整理しまとめる活動に取り組む必要がある。

③ 中学校 2 学年

ア 国語

伝えたいことが分かりやすく伝わるように文章の構成や展開を工夫することや、話の内容が明確になるよう事実と感想・意見を区別するなど話の構成を工夫することに関する問題の平均通過率が低い傾向であった。

話や文章の中に含まれている情報と情報とがどのように結び付いているかを捉えたり、整理したりしながら、その情報が自分の考えを支える根拠として適切なものであるかどうかを検討した上で、自分の考えや意見をまとめるような活動が必要である。

イ 社会

江戸時代の文化の特色や政治に関する問題の平均通過率が他の問題よりも低い傾向が見られた。

江戸時代の改革について原因・理由・背景等の流れについての基礎的・基本的な知識を身に付け、理解を深めるようにする必要がある。

ウ 数学

数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することやデータの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに関する問題の平均通過率が他の問題よりも低い傾向が見られた。

自分の考えを数学的な根拠を用いて説明したり、その説明に対してデータの収集の仕方は適切か、分析した結果から得られる結論が妥当かなどについて検討するなど批判的に考察したりする活動に取り組む必要がある。

エ 理科

気象とその変化（飽和水蒸気量と湿度）に関する問題の平均通過率が他の問題よりも低い傾向が見られた。

目に見えない水蒸気の実感したり、飽和水蒸気量について実生活の中での現象と関連付けて考えたりすることができる活動が必要である。

オ 英語

対話の流れや文法事項などを理解し、適切な語を補って表現することに関する問題の平均通過率が他の問題よりも低い傾向が見られた。

主体的に文法事項の理解を深めたり、語彙を拡げることができるよう、生徒が必要感をもって書いたり話したりするような目的・場面・状況の設定の工夫が必要である。